

市民負担・非正規雇用増・消費税増税で反対討論

12月議会
反対討論
栗山香代子議員

厚木市議会12月定例会は12月20日に閉会しました。
日本共産党議員団では栗山香代子議員が議案7件、陳情1件の反対討論を行いました。

厚木市立あつぎ市民交流
プラザ条例

(仮称)あつぎ元気館の名称が「アミューあつぎ」と発表されました。旧パルコについては、当議員団も公共施設として使用するよう求めていました。市民の期待も大きく、来年春の開館が待たれますが、同時に不安の声も聞こえてきます。

現在、条例に基づいた各種減免制度がありますが、これらが無くなると、利用する市民の負担が大きくなってしまいます。また、駐車場についても、有料となるため何らかの支援を求める声が多く、市民から出ています。

これらの負担により、市民の活動に影響が出るのではないかと危惧しています。

厚木市公共下水道使用料条例の一部を改正する条例

9月議会でも市民から下水道使用料の引き上げについて反対の陳情が出されました。9・92%の引き上げに加え、消費税増税分を含めた負担増が、家計へ与える影響は大変大きくなります。

さらに、一般的家庭での使用料と大口の使用料を比べると、厚木

市は他の自治体より、大口の使用料が割安になっています。これらの不均衡を改善する必要があるのではないのでしょうか。

工事請負契約の変更

アミューあつぎの工事については、当初22億9215万円のもものが、24億7140万に増額されています。当初から入れるべきであったと考えられる工事が、今になって追加になるのはなぜなのか、明快な説明はなされていません。

厚木市ふれあいプラザ指定管理者の指定

これまでずっと指定管理者だった事業者ではなく、別の事業者に変わります。事業は、事業そのもののだけでなく、人と人とのつながりによってなされます。そこで働く人の事はどう考えているのでしょうか。非正規雇用を助長するような指定管理者制度には賛成できるものではありません。

厚木市宮自動車駐車場指定管理者の指定

都市経済常任委員会でも市の直営ですべきとの意見がありました。施設の維持について、事業者は軽微な補修で施設を利用し利益を上げ、市は大規模な改修をしなくてはなりません。結局、市の財政負担は大きいです。

平成25年度一般会計補正予算(7号) および公共下水道事業特別会計補正予算(2号)

この2件は、事業そのものではなく、債務負担行為について、消費税増税中止を求める立場から反対いたします。

自公政権になってから1年が経ちました。この間、安倍首相は経済対策を講じ、マスコミでも景気が良くなったかの様に報道されています。しかし、消費税増税前の駆け込み需要であり、来年4月の増税以降に景気が停滞するのではないかと見方もされています。

増税は、増大する社会保障のための財源と言いつつ、その一方で、国民の不安を無視して、秘密保護法を数の力で強引に成立させ、12月17日の閣議では、中期防衛力整備計画を決定しました。その中味は、新兵器の導入として、オスプレイ17機、イージス護衛艦2隻、機動戦闘車99両など、総額が24兆6700億円にもなる軍拡計画となっています。

このような税金の使い方をしていいのでしょうか。日本を「海外で戦争のできる国」にするのではなく、福祉の充実した国にしていくなければいけません。国民・市民一人ひとりが大事にされるために、消費税増税が本当に必要なのか、大いに疑問であります。

子宮頸がんワクチン接種を一時中止し、副反応の追跡調査と被害者の救済を求める意見書を国に提出することを求める陳情

ワクチン接種により副反応で苦しんでいる人がいることについて、追跡調査と早期の救済が必要と考えます。しかし、毎年多くの人が子宮頸がんで亡くなっています。予防のできる唯一のものとされる子宮頸がんですが、ワクチンだけではなく、定期健診でさらに予防効果を上げることができるとの事です。

予防についての方法がいくつかある中で、選択肢を広げることも必要かと考え、一時中止には賛同しかねるものです。

今週の活動から



中心市街地には放置自転車がいっぱい。市営中町2丁目駐輪場は2時間まで無料です。ちょっと歩けば安心駐輪。(上: 釘丸久子議員)



12月21日、文化会館で「おおくなあ〜れ! 子育て応援シンポジウム」があり、宇宙飛行士の山崎直子さんが「宇宙・夢・人をつなぐ」のテーマで講演。感動とは感じるだけでなく、感じて動くことで前に進むこととお話でした。(下: 栗山香代子議員)